

H17選定 現代GP

医学研究者・地域医療従事者を支援する知財教育

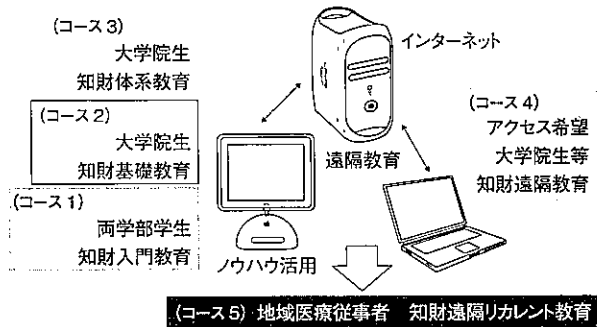
□ 札幌医科大学

札幌医科大学は、北海道における地域医療の充実を大きな目標に掲げています。大学関係者は、地域に広がる大学や病院のネットワークにおける日々の活躍の中で、常に医療技術の向上に努め、医療等の現場においてさまざまな工夫を生み出し、がん、免疫、再生医療等の最先端分野における研究成果を社会に提供しています。

このような研究成果の多くは、治療診断等技術として広く普及させるために、医療産業ベースでの開発が必要となります。そういった開発の壁を乗り越えるためには、知的財産の取得が大きなカギとなります。

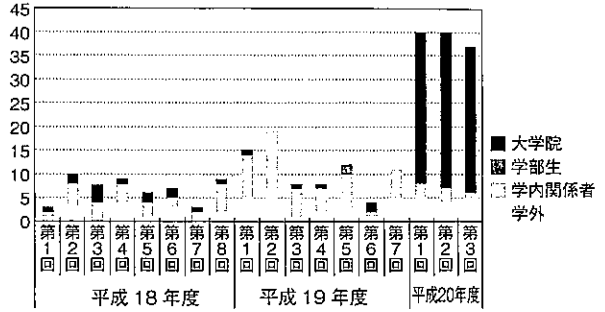
そこで本学では、平成17年度より現代GPの採択を受け、大学院生をおもな対象とした知財リテラシーを活用できる医学研究者の育成に取り組んできました。

図1 医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育イメージ



カリキュラム作成においては、広く医療研究者に知財への関心を持ってもらう必要性から、まず学部学生に対するオムニバス形式の情報系必修講義に、知財啓発講義を組み込みました(コース1)。通常講義を通じて医学系学生全員に知財の常識を持ってもらうことで、今後大学や医療現場全体の知財意識の底上げを図れるものと期待しています。大学院生に対しては、研究に最低限必要な知財の提供(コース2)に加え、医療分野の特許事情や実用化開発に関係する具体的知識について、一線で活躍する講師陣に講義をしてもらい

図2 知財教育(コース3)受講者推移



てほしい人(知財の関心が低い人)に聴講してもらえないジレンマに悩みました。しかし20年度には正規の科目にでき、たくさんの学生が参加するようになりました。受講後のアンケート結果では、当初「自分の実験と特許がどう結びつくのかイメージがわからない」などの声も一部ありましたが、具体的事例を重視した講義編成に取り組んだ結果、「現在の研究とかなり関わりが深いと認識できた」「特許を見据えた研究が必要と感じた」「自分にもMTA(研究成果有体物の移転に関する契約)が必要と思った」など、大多数の学生が知財を現実的かつ重要な課題として認識するに至っています。



講義風景

一方、地域医療に携わりながら研究を行う医療従事者に、e-Learningを活用した遠隔地教育を行っています(コース4、5)。場所や時間を選ばず学べる特徴を生かし、広く遠隔地域へ知財講義を提供することで、医療現場全体の知財意識の底上げを期待しています。

本プログラムは今年度で事業最終年度となりますが、知財意識を備えた医療人材の幅広い底上げと、それを通じた医学研究成果の社会還元に貢献すべく、今後も知財教育に取り組んでいきたいと考えています。

(附属産学・地域連携センター副所長、

医学部衛生学講座准教授 石壁 正徳)